

ハクと千について

前のコラムで、古代には、太陽神を日の太神（ヒノフトガミ）で日太神（ヒタカミ）と呼び、大地の神を地の太神（チノフトガミ）で千太神（チタカミ）と呼んだのではないかと仮説を立てました。御田植祭の大地に立てた1本の柱に太陽の神を下ろして豊穰を祈ることについて、大地の女神を象徴する竜蛇の柱「|」に、男神の太陽の「日」を上から挿すと漢字の「申」になること。

そして、大地神を表す漢字が「千」だとしたら、立てるのは上の斜めの線ははずした「十」かもしれないこと。大地に十字架を立てれば「土」になりますし、アイルランドのケルト十字も十字架に太陽の円環を付けた形であることを書きました。

日は白に、十は千に

もしかしたら、古代の大地神を表す「十」は「千」にされ、太陽神の「日」は「白」にされたのではないのでしょうか。

「千」の上部の斜めの線は人と神の境界を表したとされます。現代まで支配を続ける大和族（天孫族）は、縄文時代の「善神と一体だった庶民の暮らし」に、欲得をスキルに極で生きさせ、善神と隔たりを作って支配するようになったといわれています。その善神との交信を封じた歴史がこの斜め線なのではないでしょうか。

千 白

大地神を表す字が本来は「十」で、まるで断ち切るような斜め線に思えます。あるいは、日の神が降りられないようにしたのかも知れません。「千と千尋の神隠し」でも千尋はユバーバに「千」という名前に変えられてしまいました。

大地の神と隔たせた漢字が「千」なら、本来の日の神と人を隔たせた字は、斜め線を足した「白」になります。「白」の字は古い歴史を解明するキーワードになるのではないのでしょうか。

天皇

たとえば、天皇の「皇」の字の上部の白は「日」で「日王」すなわち饒速日命のことだったのかも知れません。

皇 皇

白山神社

また、全国に数多ある「白山神社」も、本来は「日山神社」だったのかも知れません。太陽信仰の日本なのに、どうして「日山神社」がわずかしかないかを不思議に思っていました。ということは「白山神社」の白山姫や「白山権現」の十一面観音は日と一体となる女神ということで、隠された瀬織津姫だといえます。

日山神社を検索すると、福島県葛尾村では大山津見神、山形県鮭川村では保食命、石川県七尾市では大山咋命 天照大御神を御祭神としていました。天照神以外はどれも大地系の神です。特に鮭川村の日山神社の保食命は、大地の恵みの食物の女神、東北にたくさん残る馬頭観音も同じ神とされています。大地系女神の瀬織津姫と重なります。七尾市の天照大神も元々饒速日命だったのかも知れません。太陽の男神を女神のアマテラスにすり替えたので、女神の瀬織津姫は男神の大山咋命に置き換えられたのでしょう。

いずれにせよ、男神の太陽と一体となる女神の山を祀ったのが日山神社なのだと思います。

朝日嶽信仰千年封じ

山形県朝日岳の「朝日嶽信仰千年封じ」には、面白い逸話が残っています。執権北条時頼は、当初十年間の宗教活動の停止を命じたいらしいのですが、その「十」に誰かが斜め線を足して「千」にし、千年封じになったというのです。

笑い話だと思っていましたが、深く考えれば、これは年数を表すだけではなく、前述した元の大地神の象徴の字「十」を「千」にしたということになります。隠れて大地神の瀬織津姫を祀る朝日嶽信仰をやめさせたことを表しているのではないのでしょうか。

白竜信仰

東北地方にも多い白竜信仰の竜も、日竜ということになります。私は、白竜（蛇）と弁財天がともに祀られている理由は、白竜が弁財天のしもべ的存在なのだろうと考えていましたが、白竜は太陽神饒速日命かも知れません。「千と千尋の神隠し」のハクも白い竜で、千尋と同じようにユババに名前を忘れさせられていました。

あるいは、太陽の竜も大地（水）の竜（弁財天）も、ともに白竜と考えるなら、あうんの白竜として信仰されていたのかも知れません。

もしかしたら、その太陽男神と大地女神の一体神「天之御中主神」こそが白竜の姿かも知れません。いずれにせよ、白竜は特別な竜なのでしょう。

悪さをする竜を退治した昔話が全国に残るのは、大和系支配族が出雲系竜族の元々の神をなきものにしようとした歴史なのでしょう。



日の出こそ申太神

「日」と「十」で作られた漢字の「早朝」も、朝の始まりの日の出の太陽と大地の合体を表す意味が込められているのではないのでしょうか。日の出にご利益を感じるのはまさに一体神「申太神（猿田彦神）」の現れる時だからなのでしょう。それに、夜明けには、大地神（水神）の月もまだ存在感を残している時間です。

「輪しめ縄」のある伊勢二見浦の二見興玉神社は、海（大地）からの日の出を拝む神社です。しかも合体神の象徴の夫婦岩から。まさに太陽と大地の合体した申太神（猿田彦神）が祭神というわけです。

私もこの日の出を拝ませていただいたことがありましたが、あんなに心身が癒されたことはありませんでした。とても心地よい時間でした。光は天の岩戸の穴の中にも射し込まれ、太陽と大地の合体を目で捉えることもできました。

猿田彦神は、私達が縄文時代に一体となって暮らしていた日太神（饒速日命）と地太神（瀬織津姫）の一体神ではないのでしょうか。そして天之御中主神（アメノミナカヌシノカミ）かも知れません。





二見浦 夫婦岩からの日の出



光射しこむ岩戸

2017. 9. 5 リュイテン太陽

しくみ～定規とコンパス～コラム リュイテン太陽 2017

《妄想覚え書き》

センとハクについて興味深い漢字を見つけました

「阡」(せん)の意味は、南北に通じるあぜ道。数の千

「陌」(はく)の意味は、東西に通じるあぜ道。数の百

阡陌(せんぱく)の意味は、二本の道路が交差した場所。

すなわち 「十」

太陽は東から西へ向かうので「陌」(はく)ではないだろうか

饒速日命と「阡」(せん)は 瀬織津姫

合わさり一体となると 満る数「十」天之御中主神

もしかしたら「十」の横線が「日」で縦線が「大地(水)」か？

だとしたら単純に「十」が饒速日命(太陽神)と瀬織津姫(大地神)の一体神を表していて、大和朝廷がその信仰を断ち切ったのが「千」か？

千百は1100

十一面観音は大地神を表す「土」観音」か？

「つち」は、水を表す「津」と「地」で本来一体神を表しているのか？

卑弥呼は大和朝廷にやられた平和な縄文人のはず。

日子と水子で 日水子 ひみこ 日(饒速日命)と水(瀬織津姫)の子がヒミコ

流産した子を「水子」と呼ぶのも、なくされた水の神の瀬織津姫の処遇をなぞらえた呼び方では…

ひみつ → ひみず → 日 水 秘密は日と水の神のこと

あるいは 日 水 つ 「つ」は接続詞の「の」なので 日水の(こと)

左ひだり → 日だり

右みぎ → 水ぎ

妄想は尽きない